

■ 化学構造と運転への影響

抗ヒスタミン薬は化学構造に基づいて、三環系骨格、ピペリジン骨格、ピペラジン骨格などに分類されます。

例えば、三環系骨格の薬で効果があり見られない場合、他の骨格を持つ薬剤に変更することで、くしゃみやかゆみが治まることがあります。

図2：抗ヒスタミン薬の化学構造と運転への影響に基づく分類

化学構造 運転に関する記述	三環系骨格	ピペリジン骨格	ピペラジン骨格
記載なし			
△			
×			

1. 記載なし

2. △

3. ×



■ 妊婦・授乳婦への使用

● 妊婦への影響

妊娠中の抗ヒスタミン薬の使用は、胎児に対するリスクを示す。特に、三環系抗うつ薬は、心臓や脳の発育障害のリスクがある。ピペラジン骨格の薬は、これらのリスクが低いとされる。

● 授乳婦への影響



■ 外用剤の使用方法と注意点

経口剤以外の抗ヒスタミン薬には点鼻薬や点眼薬などがあり、局所的な症状緩和に用います。

図3：抗ヒスタミン薬の点眼薬一覧

成分名	主な商品名	用法	コンタクトレンズ着用時
アレバコナ	アレバコナ	目薬	目薬
アレバコナ	アレバコナ	目薬	目薬
アレバコナ	アレバコナ	目薬	目薬
アレバコナ	アレバコナ	目薬	目薬